

### TOPICS

- TOPICS 1 「医療連携室」移動のご案内
- TOPICS 2 『子宮頸がん』って？ ～婦人科 第2回～
- TOPICS 3 インフルエンザ予防接種のご案内



### TOPICS 1 「医療連携室」移動のご案内

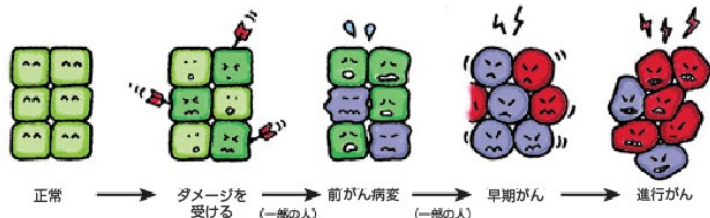
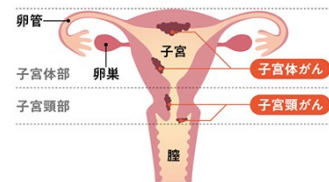
**「医療連携室」が令和6年5月より1階から2階へ移動しました**  
ご不便をお掛けしますが、何卒よろしくお願ひいたします

※下図「1F」の○エレベーターを利用し「2F」へ移動してください

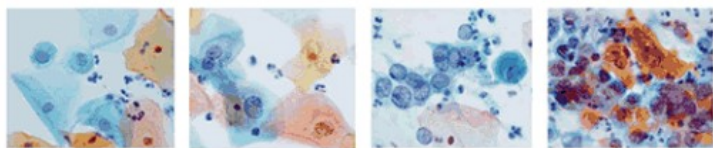


## ●子宮頸がんとは？

子宮頸がんは、子宮の入り口(子宮頸部)にできるがんです。子宮頸部は、性行為や出産などで刺激を受けやすい場所です。HPV感染により正常の細胞はダメージを受け、その結果、一部の人では頸部の細胞が異常な変化を起こして異形成という病変になります。多くは正常に戻りますが、そのなかの一部はがんへと進むことがわかっています(図)。若い女性でも、子宮頸部の細胞がダメージを受ければ子宮頸がんにかかる可能性があります。



### ■子宮頸がんの進行



正常 ← 異形成 → 早期がん → 進行がん

細胞にダメージをあたえ、子宮頸がんに関連の深い因子は、HPV (ヒトパピローマウイルス) というウイルスです。HPVは性交によって感染し、セックスパートナーの多い女性や、性行動の盛んな男性をパートナーにもつ女性は感染の危険度が高いとされています。その他にも子宮頸がんになりやすいとされる因子があり、それらとともに発癌リスクの高いHPVに感染している場合は、頸がんの発生率が高くなると言われています。

写真は正常～進行がんになる細胞の変化です。頸がんは、「異形成」という前がん病変から「頸がん」へと進むといわれていますが、この「異形成」がすべて「がん」になるわけではありません。異形成がみられた場合に、定期的に細胞診を行って経過をみていくか、治療をするかは医師の判断となります。このように細胞診は子宮のガンだけでなく、前がん病変から捉えることができる検査法です(写真)。

### 子宮頸がんになりやすい原因はあるのでしょうか？

子宮がんになりやすい因子

- (1)初交年齢が若い
- (2)セックスパートナーが多い
- (3)多産 (4)喫煙者
- (5)ビタミンA、Cの少ない食事
- (6)経口避妊薬(ピル)の長期服用者
- (7)免疫系の低下

### 検診の結果について 細胞診判定

この分類の検査結果により

- ・NILM：1～2年ごとの子宮頸がん検診
- ・ASC-US：要精密検査
  - ①HPVテストが望ましい
  - ②HPVテスト非施行時
 6か月以内細胞検査 再検査
- ・ASC-H以上：要精密検査  
コルポ、生検

- \* HPVとは ヒトパピローマウイルスです。
- \* 異形成とは 子宮頸がんではないものの、細胞成熟過程の乱れと核の異常を示す病変です。
- \* NILM 従来のクラス分類では、I、IIがこれにあたります。

略語 (読み方)	推定される病理診断
NILM (ニルム)	異常なし
ASC-US (アスカス)	異形成と言いきれないが細胞に変化がある
ASC-H (アスクエイチ)	異形成はあるけれどもはっきりとわからない状態
LSIL (ローシル)	ヒトパピローマウイルス (HPV) に感染していたり 軽度異形成の可能性はある
HSIL (ハイシル)	中程度異形成、高度異形成、上皮がんの疑いがある
SCC	明らかに扁平上皮がんがある
AGC	腺異形成、腺系病変疑い
AIS	最初期に腺がん
Adenocarcinoma	進行した腺がん
Other	その他の悪性腫瘍

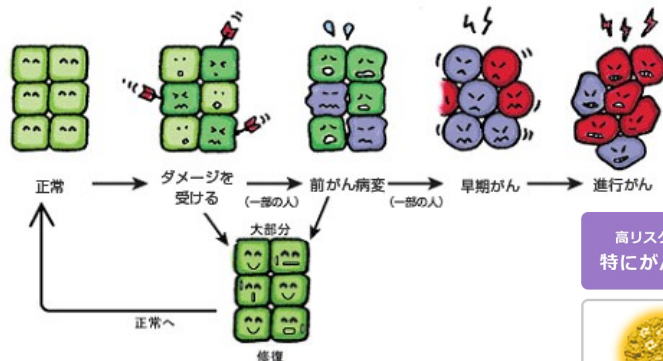
# HPV（ヒトパピローマウイルス）について



ヒトパピローマウイルス  
Human Papilloma Virus (HPV)

## HPVって何ですか？

子宮頸がんはHuman Papillomavirus（HPV）による感染が原因と言われています。大部分が性交渉により感染するウイルスですが、一般的に言う性感染症と異なり、性生活がある場合には誰もが生涯に一度は感染すると言われています。HPVは100種類以上の型があることがわかっており、このうち子宮頸がんに関与するハイリスクHPVは13～14種類ほどで、発癌の危険度に差があります。HPV感染の大部分は2年以内に自然治癒しますが、たまたまハイリスクのHPV（16型、18型など）に長期持続感染すると、がんの前段階を経て、子宮頸がんが発症しやすくなります。



## HPVの検査法について

頸がんの発生に関与しているハイリスクHPVの有無を検出する検査法で、子宮頸部より採取した細胞で検査をします。COBAS HPVテストを使用し、HPV16型、18型とその他のハイリスク型を検出しています。健診の結果ASC-USであった場合、精密検査としてHPV検査へと進みます。HPV検査が陽性か陰性によって、今後の指導方針が変わります。

## HPVワクチンについて

HPV感染症を防ぐワクチン（HPVワクチン）は、小学校6年～高校1年相当の女子を対象に、定期接種が行われています。

平成9年度～平成19年度生まれ（※）まで（誕生日が1997年4月2日～2008年4月1日）の女性の中に、通常のHPVワクチンの定期接種の対象年齢の間に接種を逃した方がいらっしゃいます。

（※）令和6年4月からは、平成19年度生まれ（誕生日が2007年4月2日～2008年4月1日）の女性もキャッチアップ接種の対象になります。



接種の対象に該当する方は、令和4（2022）年4月～令和7（2025）年3月の3年間、HPVワクチンを公費で接種できます。

※HPVワクチンは、平成25（2013）年6月から、積極的な勧奨を一時的に差し控えていましたが、令和3（2021）年11月に、専門家の評価により「HPVワクチンの積極的勧奨を差し控えている状態を終了させることが妥当」とされ、令和4（2022）年4月から、他の定期接種と同様に、個別の勧奨を行っています。

※当院ではHPVワクチンの接種は行っていません。実施方法や接種の詳細などについては銚子市健康づくり課保健事業室「健康づくり支援班」にお問い合わせください。

電話：0479-24-8070



島田総合病院 産婦人科予約 代表 0479-22-5401  
平日8:30～12:00、13:30～17:00  
土曜日8:30～12:00（第2・第4は除く）

●リーフレット（上図）  
「小学校6年生～高校1年相当の女の子と保護者の方へ大切なお知らせ」（厚生省サイトよりご覧いただけます）

【引用・参考文献】

●日本産科婦人科学会「子宮頸がんとHPVワクチンに関する正しい理解のために」

[http://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content\\_id=4](http://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content_id=4)



当院では、**9月24日（火）**より

今期の**インフルエンザワクチン予防接種の予約**を開始しました

※接種を希望される方は**事前の予約**が必要となります

### 接種期間

**2024年10月15日（火）～終了日未定**

※ワクチンの入荷状況等、在庫が無くなり次第終了となりますのでお早めのご予約をおすすめします

### 接種日時

【火曜日・水曜日・木曜日】 **14:00～16:45**      【土曜日】 **9:00～10:00**

### 予約方法

■来院の場合…「総合受付」スタッフに直接お申し出ください

【対応時間】 月曜～金曜：14:00～16:30

■電話の場合… 予約専用ダイヤル ☎ **0479-22-8958**

【対応時間】 月曜～金曜：15:30～16:30

※当院に受診歴のある方は患者番号をお伝えいただくとスムーズにご予約できます

### 接種料金

【一般】 **3100円**      【学生】 **2500円**      【1歳から中学生】 **2000円**

※高校・専門・大学生の方は受付時に必ず学生証の提示をお願いします

### 助成金

#### ■銚子市在住の方

●助成期間：2024年10月1日～2024年12月31日

●対象者・助成額：65歳以上、60歳～64歳の身障1級      ・ ・ ・      **1000円**

1歳～中学生（1回目のみ）      ・ ・ ・      **2000円**

※市から郵送された「助成券」を接種当日にご持参ください

#### ■銚子市以外の方

●助成制度に関しては、各市町村の施策に基づきます。

●助成制度を受ける場合、必ず予診票をご持参ください。

※新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンの同時接種は可能であると認められております。

※その他ワクチンとの同時接種については、事前にお問い合わせ頂くか、厚生労働省ホームページ等でご確認ください。